



遠山霜月祭

国指定重要無形民俗文化財

下栗編



【再生上のご注意】

- このディスクはコピー防止の処理がされています。プレイヤーからの映像ケーブルをビデオデッキなどを經由してテレビに接続すると、コピーガード信号の影響で画像が乱れることがありますので、DVD プレイヤーの映像出力から直接モニターに接続してください。
- パソコン搭載の DVD-ROM プレイヤーでの動作は保証しておりません。

【取り扱い上のご注意】

- ディスクは両面とも、指紋、汚れ、キズ等をつけないように取り扱って下さい。
 - ディスクが汚れた時は、柔らかい布を軽く水で濡らせ、内周から外周に向かって放射線状に軽く拭き取って下さい。
 - ひび割れや変形、または接着剤等で補修されたディスクは危険ですから絶対に使用しないで下さい。
- また、静電気防止剤やスプレー等の使用は、ひび割れの原因となることがあります。

【保管上のご注意】

- 使用後は必ずプレイヤーから取り出し、DVD 専用のケースに収めて、直接日光の当たる所や高温多湿の場所は避けて保管して下さい。

【おことわり】

このディスクの映像・音声並びにパッケージに関するすべての権利は著作権者が有し、その使用は個人視聴及び家庭内での鑑賞に限られています。
上映や VOD (ビデオ・オン・デマンド) で利用する場合は条件が異なりますので、事前に飯田市美術館までご連絡ください。
無断でこれを複製、変更、上映、放送、配給、転送、レンタルすることは法律で固く禁じられています。

120分	片面2層 COLOR	DVD VIDEO	DD DOLBY DIGITAL	16:9 LB	ALL NTSC	レンタル禁止 複製禁止	¥9,800(税込) 個人視聴用
------	---------------	--------------	------------------------	------------	-------------	----------------	---------------------

- ◆下栗編の他に、上町／中郷／程野編があります。
- ◆4枚セット ●個人視聴用：定価 35,000 円(税込) ●図書館使用：定価 150,000 (税込)

【企画】飯田市・飯田市美術館・上村遠山霜月祭保存会 【協力】長野県・飯田市上村自治振興センター
【撮影】TV-4 【制作】ヴィジュアルフォークロア 【撮影年】2005年 【制作年】2009年

発行・販売：飯田市美術館 〒395-0034 長野県飯田市追手町 2-655-7
TEL 0265-22-8118 FAX 0265-22-5252 E-mail: human@iida-museum.org



一 プロローグ

十 式の湯

【十二月一日】

十一 天^{てんの}王^{のう}の湯

● 喜びの舞

二 きしめ造り

● 切りはやし ● 宮飾り

十二 初参り

● 村内安全祈願の湯 ● 中学生の舞

【十二月十二日 宵祭りの日】

三 竈^{かまぬ}塗り

十三 眷^{けんぞく}属^の湯

四 宵祭り

十四 三^{さん}太^だ夫^{ゆう}家^の清^め

【十二月十三日 本祭りの日】

五 しようじめ

● おひやし搦^なぎ ● 火のあて飾り

十五 中^{ちゆう}祓^ひい

● 神返^{かみかへ}しの神^{かみ}楽 ● 面^{おもて}開^き

六 開式

十七 禊^{たけき}の舞

七 水^{みづ}迎^{むか}え

十八 神^{かみ}面^{めん}

八 座^ざ揃^{ぞろ}い

十九 かす舞 ● 返^{へん}問^{もん}返^へし ● 閉^{へい}式

九 神^{かみ}名^な帳^{ちゆう}

二十 スタッフ／クレジット

遠山霜月祭

下栗編

桜井弘人 飯田市美術博物館学芸員

●日本最大の活断層である中央構造線によって、赤石山脈と伊那山脈との間に深く刻まれた遠山谷。この谷に国の重要無形民俗文化財に指定される「遠山の霜月祭」が伝承されている。現在の行政区でいえば長野県飯田市上村・南信濃、平成の大合併以前は下伊那郡上村・南信濃村であった。

●全国山村の例外にもれず少子高齢化による過疎に悩む地域であるが、この地は豊かな林産資源の宝庫として注目されてきた歴史をもつ。平安時代末期に荘園が開かれ、鎌倉時代には鎌倉八幡宮寺の信濃国唯一の神料地となった。南北朝時代には同じ中央構造線上の隣接地―大鹿村大河原に南朝方後醍醐天皇の第八皇子宗良親王が征夷大將軍として三十数年にわたって拠点を置いていた。山深い地に遠山の霜月祭りが伝承される理由は、そんな歴史的な背景があるのだろう。

●のちに豊臣秀吉が大坂城の木材を、徳川家康が江戸城天守閣の木材を遠山谷から産出している。元和四年（一六一八）にこの地を領有した遠山氏が改易となったのも、林産資源をねらう幕府の意図があったからだと考えられる。以後、幕府直轄領となり、木材で年貢を納める樽木成村（くれきなりむら）となった。

一 はじめに （遠山谷）

●遠山の霜月祭は、現在十二月中旬に十二か所の神社で開催されるが、本来その名のように旧暦霜月（十一月・神楽月）を祭り月とした。冬至における太陽の衰弱と再生になぞらえて、神も人も自然もすべての生命の「生まれ清まり」を願うのが、この祭りの本旨である。

二 遠山の 霜月祭の 特徴

●祭りは、神社の舞殿中央に設けた竈や五徳に据えた湯釜に一晩中湯を沸きたぎらせ、神楽歌や舞を伴う湯立てを繰り返し行う湯立神楽である。全国的にみれば湯立神楽は秋田県の保呂羽山（ほろはさん）の神楽、三浦半島一帯の鎌倉神楽、奥三河の花祭りなどがあるが、徹底して湯立てに固執するところに遠山の大きな特徴がある。同様な祭りは隣り天龍村の坂部（さかんべ）の冬祭り・向方（むかがた）のお潔め祭りや、近接する富山（とみやま）の御神楽（愛知県豊根村）など、三遠信国境の主以南信州側一帯に分布する。それらは華やかな舞を中心として発展した奥三河の花祭りに比べて地味ではあるが、あきらかに湯立神楽の古態を有する。その最たるものがこの祭りなのである。

●もう一つ、この祭りの特徴は、重病人や出征兵士などがその快復と無事を願って神々に誓約し、かなえられた場合に願果たしを行う重要な機会だったことである。この「立願（リュウガン・リツガン）」と「願ばたき」の習俗は戦後になって急激に廃れたが、それでもなお濃厚に形を留めている。ここに、霜月神楽の本質ともいえるべき深い信仰世界を伺い知ることができる。

●その他にも、重要な湯立てや行事に先だって饗食を繰り返すなど、細部にわたって神祀りの古い形を留めている。この祭りはじつにさまざまな示唆に富むといえよう。

●遠山谷十二か所の祭りの内容は、地区ごとに類似性を持ち、大きく次の四タイプ（系統）に分けられる。*日付は12月

上町タイプ：「上村」上町（11日）・中郷（12日↓第一土曜日）・程野（14日）

下栗タイプ：「上村」下栗（13日）

木沢タイプ：「南信濃」中立／八日市場（隔年交互 8日↓1日）・上島（第二土曜日）・

小道木（第一曜日）・木沢（10日↓第二土曜日）

和田タイプ：「南信濃」和田（13日）・八重河内（15日）・大町（23日）

●以上の四タイプの中で、他と際違った違いを見せるのが和田タイプである。湯立ては一口の湯釜を用いた三立のみで、内容も他に比べて独特である。舞は太鼓と採り物の鈴で、湯釜の隅を立場として神事や舞を行う。

それに対して他の三タイプは、二口（木沢のみ三口）の湯釜の周りで湯立てが一〇立前後も嚴重にくり返され、舞にはさらに笛を伴い、神名帳奉読により全国一の宮を勧請するところに特徴がある。なかでも木沢・下栗タイプには神楽歌を奏する際に銅拍子が付くほか、湯立ての内容や面の構成など全般に共通性が認められて、古くは源を同じくしたものと考えられる。両者の違いは、木沢タイプが全般に簡素な印象を与えるのに対して、下栗は契印と呪文を数多く繰り返すなど呪術色が強いことである。

三 四タイプの 祭り

いっぽう上町タイプは、個々の行事内容が複雑にして濃厚である。面は江戸時代初期の改易まで遠山地方を領有した遠山一族の御霊を象ったといわれる「八社之神」があり、祭り全体に大きな陰を落としている。伝承では、百姓一揆によって遠山氏を滅ぼした祟りで疫病が流行ったため、その霊を慰める祭りを従来の祭りに加えたという。祟り鎮め

に重点を置いて再構成された形を、上町タイプの祭りにみる事ができる。

四

霜月祭の

全体日程と

担い手

●遠山の霜月祭は、一日一夜の祭りと考えられがちである。しかし本来は、十二月一日の「朔日祭り(きしめ造り)」に始まり、前日(一日目)に「宮支度」と「宵祭り」、その夜「お籠もり」があり、本日(翌朝(二・三日目))に「水迎えなど」と「本祭り」、翌々日(四日目)が「算日(三日・宮勘定)」である。

●十二月一日には重要な神饌である「きしめ(甘酒)」を仕込む。前日は竈を築き直し、幣束などの紙飾りを切り、注連縄を緋い、祭具を整える。その夜の宵祭りでは祭具を清め、神々のやってくる道を清める。本日は湯立ての水迎え・釜洗いや湯の上飾りをして本祭りとなる。祭場を清め、「神名帳(神帳)」「申上」を奉読して全国一の宮の神々を迎えて祈願し、以後、湯立てを夜通しえんえんと繰り返す。湯立てと舞には恒例でおこなうべき「式礼」に、「願(願ばたき)」の湯立てと舞が挿入される。夜明け近くに神社の祭神や地域の神々が面神となって登場したのちに神返しとなる。四日目は片付けと決算報告をして終わる。

●祭りは、和田地区を除いて集落あげて行われ、「禰宜」とよばれる民間宗教者が中心になって執行する。数々の祓詞・祝詞や呪文を唱え、契印して九字を切るなど、神仏混淆の両部神道を色濃く伝えている。

●本DVDは、二〇〇五(平成十七)年、上町霜月祭保存会が本格的な映像記録を残そうと、現場でのフラッシュを禁じて撮影したものである。下栗の日程は次のとおりであった。

きしめ仕込み 十二月一日

宵祭り 十二月十二日

本祭り 十二月十三日から翌日未明

算日(片付け) 十二月十四日午後

●下栗の霜月祭は、拾五社大明神で行われる祭りである。上町・中郷・程野とは異なり、木沢タイプに近い特徴をもつ。以下、本映像の特に推奨できる見所を列記する。

〔水迎え〕 両親のそろう男女の子ども二組が祓沢へ湯立ての水を汲みに行く。

〔禰宜と精舎〕 祭りを主宰する禰宜は、主祭神を受け持つ「三太夫」三人とソデ禰宜四人からなる。「中祓い」までは村人とは別に精舎内で食事をとる。

〔神名帳〕 座して行う上町ほかと異なり、二つ折の筵に立って巻物の神名帳を奉読する。

〔湯立て〕 重要な湯立て「役湯」には、「式(拾五社)の湯」「天王の湯」「鎮めの湯」があり、覆面を着けた二人二組が行い、契印と呪文を繰り返す。「眷属の湯」は一度使用済みの湯木を持った村人が加わる。

〔神面〕 一時期、分離独立した津島牛頭天王社分の面をあわせた三十九面が登場する。

五

下栗の

霜月祭